



様式第2号

議長	副議長	委員	月俸	次長	借入金	借入金	借入金	借入金	借入金

平成29年 // 月 2 / 日

坂戸市議会議長 様

会派名 日本共産党

代表者名

新井文雄^印

実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

記

- 1 期 日 平成29年10月30日（月）午後1時30分～3時
- 2 参加者氏名

新井文雄	吉岡茂樹	鈴木友之	平瀬敬久

- 3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 全員協議会室	坂戸市議会議員研修会 「埼玉県5か年計画について」

- 4 概要
別添のとおり

平成29年度 坂戸市議会議員研修会 報告書

講師に埼玉県企画財政部計画調整課長の堀口幸生氏をお招きし、「埼玉県5か年計画について」講演をいただいた。

戦後、増加を続けてきた埼玉県の人口はまもなく減少に転じ、人口構造も大きく変わり高齢者の増加の一方で働き盛りの世代の減少が進むことが想定される中で、「埼玉県5か年計画—希望・活躍・うるおいの埼玉」を策定し、埼玉県を取り巻く環境の大きな変化にどのように対応し、持続的発展を実現するための県政運営の基本となる計画を策定されたことが語られた。

講師から、本市が昭和40年代の人口の急増から発展を遂げた経緯は、埼玉県の発展の仕方と非常に似ていることが語られた。埼玉県の運営の指針となる本計画から得られるものがあるのではないかと講師の話に聞き入った。

埼玉県は、昭和63年に策定された「緑と清流豊かな埼玉」の中期計画から自然豊かな清流と緑豊かな埼玉県の特色を生かした「環境」を大切にする施策を推進している。途中、「とかいなか」という言葉がでたが、都会と田舎が混在する埼玉県の環境、中心市街地では都会だが少し足を延ばすと田園地帯や緑豊かな環境があり暮らしやすい環境であり、その特色を有効に活用することがカギと考えられる。

新たな5か年計画のポイントでは、「希望・活躍・うるおいの埼玉」を掲げ、時代の潮流に対応する「11の宣言」が大きく3本の柱で構成されている。

1本目の柱は、これから一層進む人口減少と人口構造の変化、異次元の高齢化に対し、シニア世代の活躍を支援する施策、1つ目は、アクティブシニアの活躍支援で『「支えられる人」から「社会をともに担う人」へ』として、長く働ける環境を整備すること、ボランティアなどでの地域とのつながりを支援していくこと、それらのきっかけをつくる「彩の国シニア応援大使」による情報発信。きっかけづくりと、それを受け入れる環境の整備を進めることで、アクティブシニアの活躍を支援するとしている。

2つ目は、健康長寿埼玉プロジェクトとして、健康長寿埼玉モデルの普及拡大と埼玉県コバトン健康マイレージの運用の開始が挙げられている。健康長寿埼玉モデルの普及拡大では、毎日一万歩運動、プラス1000歩運動、筋力アップトレーニングを普及拡大し、健康寿命の延命を進め、埼玉県コバトン健康マイレージで、参加者が楽しみながらウォーキングなどの健康づくりに取り組める施策で健康寿命の延命を下支えし、医療費の抑制を図る取組である。

3つ目は、地域包括ケアシステムで、地域住民に対する医療・介護・福祉などのサービスを関係者が連携・協力して一体的・系統的に提供していくとしている。

2本目の柱、人材育成・確保では、「実効性のある少子化対策」では、①妊娠から子育てまで切れ目のない支援②多子世帯への支援③保育サービス等の充実④子育て世代の負担軽減が掲げられ、「埼玉版ウーマノミクス」では、平成27年から導入された国の施策に先駆け、平成16年から導入された「女性チャレンジ支援」を平成24年「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」として開始。働き方見直しの取組を推進し、女性の活躍を支援する取組を進めている。

また、未来の担い手育成として、①1人1人を確実に伸ばす教育として、学力の伸びを小4から中3まで継続的に把握し、データを徹底的に分析、大学など専門的研究機関の力を活用することで、科学的根拠に基づく効果的な指導を実現し、学力の向上につなげるというものである。②グローバル人材の育成では、埼玉グローバル人材育成基金で、県出資と民間の寄付により自治体トップクラスの「埼玉発世界行き奨学金」により、平成23年から平成28年で1600人を送りだしている。さらに、平成29年から冠奨学金を創設し未来の担い手の育成を進めるとしている。

3本目の柱では、稼ぐ力の強化として、①多彩な産業の集積では、大規模工場とそれをサポートする中小企業が立地する全国有数の工業県であり、農業産出である。そこに、秩父まつりや川越まつり、ライン下りなど、魅力ある観光コンテンツを組み合わせ埼玉プラチナルートとして、県内を回遊させ埼玉県をアピールする取組や、②先端産業創造プロジェクトでは、研究機関や大学等の先端シーズと企業の優れた技術の連携で先端産業を創造し、稼ぐ力の強化を図るとしている。

こうした、県の5か年計画について、講演を受け県の施策の動きが分かった。冒頭で埼玉県と坂戸市の発展の仕方が非常に似ているとあったが、県から学ぶべき部分は多いと考える。坂戸市は東京のベットタウンとして昭和40年代から急速に発展を遂げた自治体であり、歴史的にも交通の要所として栄え、現在も鉄道や坂戸インター、坂戸西スマートインターなどアクセスも良く、発展する潜在能力は十分にある自治体だと改めて実感した。今回の議員研修で学んだことを議会での政策提言に生かしていきたい。